



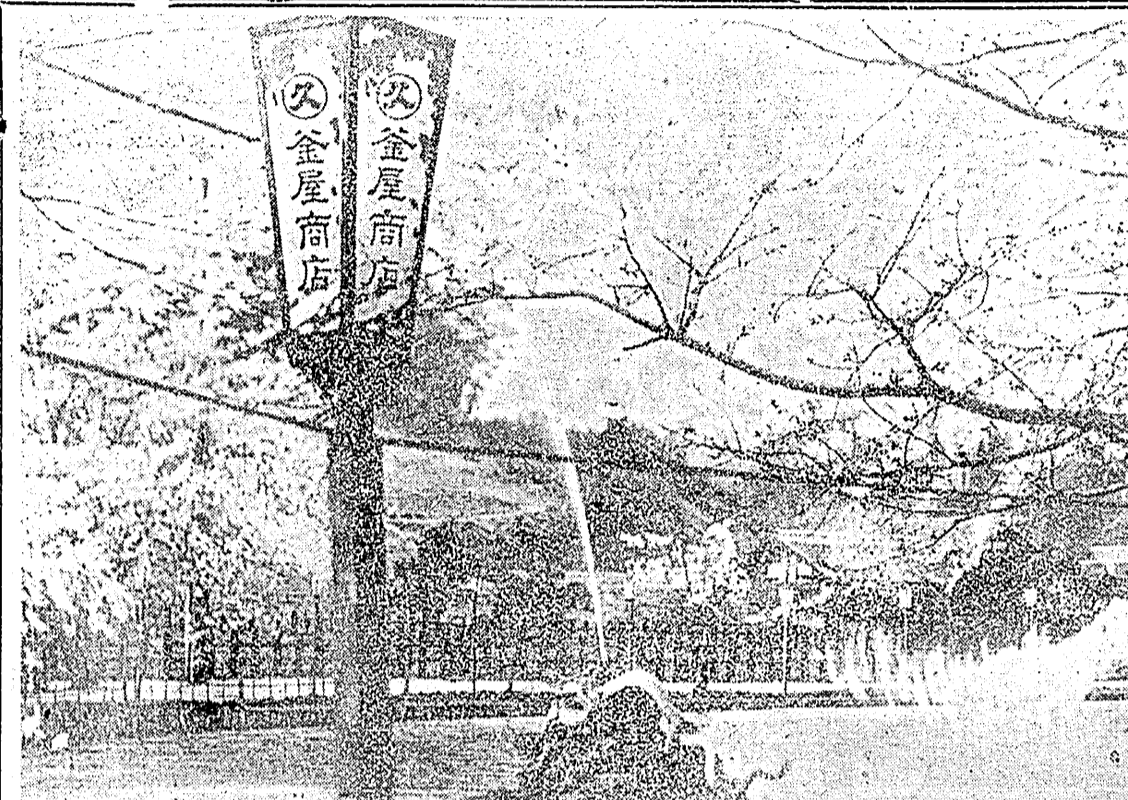
### 創案自力更生の最新經濟育蠶法

木田藤次郎氏の研究

平町畜産部畜産課指導に當たること。會では非常時農村更生自力 因に同育法は、一、二齡の實際化として小費多量は本製の箱にして蓋は天竺の經濟育蠶法を奨励指導す。木綿を用ひ、三齡は、條桑の事となり之れが指導には育棚に移し普通育とし四齡蠶業技術木田藤次郎氏が當五齡を條桑育と爲す。即ち三月末より四月末日迄種蠶、壯蠶の經濟自力更生約一ヶ月間石城、双葉、相育法であるに付き指導希望馬の濱三郡各町村に於て講習は同會まで申込まれた。習講習を開催し之れが普及と。

### 平町案内につき

四月七日 平町案内 狼烟 生 左の投書につき引いて昨 年平町案内の發行に當り 其の道程については、はら 詳細公表し世の批判を 乞はんとするものである。 木君より柴田徳二君と 能謙次郎君が責任を負ふ べきものであると私考す。 「眞立生」 拜啓貴社諸君御多謝之段 奉復候却説高木忠三郎君は 弊中通信なる新聞を發行し



### 花見気分 不夜城化す 松ヶ岡公園

箱庭的で全國に有名となつた平町松ヶ岡公園の女房が懐かし御針をして櫻花も今や咲き初め、十四日夜よりは例年の通り雪洞、提灯の化して居るが傍に紫の清城化し、十七、十八日平町鎮座祭典に際して、十九日平町管内消防隊、各種団体の催し、地方炭礦の觀摩、衛生ならぬいやが上に花見気分が溢する事であらふ。寫眞は平町松ヶ岡公園内、池の龍は、釜原商店より寄贈の富士越の龍吐水。



福清の清子は此程人に羨まれる身となつた。手活の主人は其昔延命院柳全まがいの娘。深きサアさん寺には縁女房が懐かし御針をして、あるのは可哀そうにお経も初め、十四日夜よりは例年の通り雪洞、提灯の化して居るが傍に紫の清城化し、十七、十八日平町鎮座祭典に際して、十九日平町管内消防隊、各種団体の催し、地方炭礦の觀摩、衛生ならぬいやが上に花見気分が溢する事であらふ。寫眞は平町松ヶ岡公園内、池の龍は、釜原商店より寄贈の富士越の龍吐水。

### 平大人會番附 (女將藝妓之部)

- |        |       |       |    |       |       |
|--------|-------|-------|----|-------|-------|
| 横綱     | 榮家 榮  | 一元〇〇〇 | 前頭 | 眞佐乃女將 | 三元〇〇〇 |
| 大關     | 蓬萊亭女將 | 二元五〇〇 | 全  | 三益 女將 | 二元〇〇〇 |
| 關脇     | 福清きよ子 | 一元七〇〇 | 全  | 大村屋女將 | 一元七〇〇 |
| 小結     | 久本 女將 | 一元七〇〇 | 全  | 林家 濱路 | 一元五〇〇 |
| 前頭     | 越乃家お春 | 一元七〇〇 | 全  | 二葉家色葉 | 一元五〇〇 |
| 全      | 君乃家女將 | 一元七〇〇 | 全  | 三好家きき | 一元五〇〇 |
| 全      | 初音 女將 | 一元六〇〇 | 全  | 山形家お太 | 一元五〇〇 |
| 全      | 開花 高助 | 一元五〇〇 | 全  | 湖月 菊枝 | 一元五〇〇 |
| 一味 (東) | 行谷口   | 一元    | 勸  | 平新報社  | 一元    |
| 清風 (西) | 司品深   | 一元    | 進  | 第二回版元 | 一元    |

### 観櫻歓迎

- |         |        |
|---------|--------|
| 平土木監督所長 | 小林 清吉  |
| 諸大橋     | 敬一郎    |
| 強口      | 唯七郎    |
| 平町一丁目   | 大平屋薬店  |
| 平町一丁目   | 花見折詰 藤 |

### 坂本紙店

平町二丁目 電話一八番

### 越乃家

平町二丁目 電話三三〇番

### 袋屋商店

平町四丁目 電話一一番

### 永山洗染所

工場 大町警察署通り 電話五六七番

### 田中宣治

平町大 電話五〇二番

### 難波院

平町南 電話六一七番

### 坂本精利

平町南 電話四二六番

### 住吉屋本店

平町南 電話一五九番

### 御料理 八代

平町南 電話三七五番

### 御料理 紀

平町南 電話五〇九番

### 平料理屋組合

平松ヶ岡公園池の端 電話二二六番